

2020年3月期 第1四半期 決算説明資料

2019年7月30日 日本瓦斯株式会社

目次

決算のポイント	P.1
決算の実績	P.3
3ヶ年計画	P.9
気温想定	P.10
株主様への還元	P.11
海外事業	P.12
財務の行方	P.13
参考	P.15



決算のポイント①／計画に対する利益の進捗

粗利益はほぼ計画通り。販管費を計画内に抑えて、営業利益は計画比+4億円

- 粗利益はほぼ計画通りで、160億円の計画に対して実績159億円。セグメント別でもほぼ計画通り。販管費は計画内に抑え、130億円の計画に対して125億円(計画比▲5億円)。結果、営業利益は30億円の計画に対して34億円を計上、計画を4億円上回った。

(億円)	20/3期 1Q(計)	20/3期 1Q(実)	コメント	20/3期 (通期計)
粗利益	160	159	ほぼ想定通り	637
LPガス	106	105	利幅想定以上	422
旧都市ガス	48	48	顧客数ほぼ横ばい	188
新都市ガス	6	6	顧客大幅増加、ガス販売量伸長	27
販管費	130	125	計画内。年間計画532億円は据え置く	532
営業利益	30	34	計画を上回って進捗	105

気温	前期より寒い	前期比▲1.3°C
-----------	---------------	------------------

決算のポイント②／お客様純増の進捗

最優先のLPガス事業のお客様純増ペースは計画を上回って進捗

- 最優先のLPガスお客様純増(4月-6月)は9,317件。年間計画30千件に対し進捗率31%と順調に推移、前期比1.5倍の実績。20億円規模のM&Aは顧客移管手続を執行中、年度内に完了予定。
- 旧都市ガスのお客様数は僅かに純減も計画と大きな相違はない。他業者へのスイッチングペース鈍化。
- プラットフォーム(PF)収益も計画通り推移。PF利用社の伸びに伴い収益も増加する。

お客様純増数	20/3期 (通期計)	20/3期1Q (4月-6月)	進捗 (%)	コメント	19/3期1Q (4月-6月)
LPガス(件)	30,000	9,317	31%	計画を上回る進捗。前期比で1.5倍の実績。M&Aは1Qに1,315件の移管完了	6,205
旧都市ガス(件)	0	▲209	-	他業者へのスイッチングペースは鈍化	404
新都市ガス(件)	150,000	31,009	21%	計画には及ばずだが、前期は上回る	27,554
電気(件)	100,000	23,094	23%	ほぼ計画通り	-

※電気お客様数は、LPガス、旧都市ガス、新都市ガスのお客様数の内数です(電気はセットのみで提供)

プラットフォーム収益(億円)	4	1	25%	他業者へのシステム提供からの収益	0.2
----------------	---	---	-----	------------------	-----

※プラットフォーム収益は、セグメント収益ではLPガスの内数です

決算の実績①／サマリー(19/4-6月)

LPガスセグメント伸びて粗利増益。販管費の微増を吸収して営業利益で大幅増益

- LPガスで利幅が想定以上、前期より低い気温もフォローで、同セグメントの粗利は前期比14億円増益。新都市ガスではお客様数増加し、ガス販売量大幅伸長。粗利は全体で同19億円の増益となった。
- 販管費は計画内でコントロール、前期比+3億円に抑えて、営業利益段階で同16億円の大幅増益。純利益を含め、各段階で増益となった。

*実数の単位未満は端数処理。 *%, 増減は億円表示処理後で算出。

全セグメント合計(億円)	19/3期1Q (4月-6月)	%	20/3期1Q (4月-6月)	%	増減	コメント
売上高	287	100%	328	100%	+41	
粗利益	140	49%	159	48%	+19	・内、LPガスセグメントで14億円の増益
販管費(詳細は次葉)	122	43%	125	38%	+3	・販管費は微増、計画内
営業利益	18	6%	34	10%	+16	
当期純利益	10	3%	22	7%	+12	
ガスセグメント別粗利益						
LPガス	91		105		+14	・プラットフォーム、土地賃貸、電気の利益を含む
旧都市ガス	47		48		+1	
新都市ガス	2		6		+4	・お客様の大幅増による
お客様純増数(千件)	34		40		+6	
お客様数(千件)	1,372		1,536		+164	・新都市ガスお客様数増加(+137千件)
ガス販売量(千トン)	163		177		+14	
LPガス	77		80		+3	
旧都市ガス	73		74		+1	
新都市ガス	12		23		+11	・お客様数増加による
電気粗利益 *LPガス粗利益に含まれる	-		0.3		+0.3	
電気販売量(MWh)	-		21,162		+21,162	

決算の実績②／販管費明細

1Qの販管費実績は、通期計画比で進捗率23%。通期計画は据え置く

- 20/3期1Qの販管費実績は125億円、通期計画532億円に対して進捗率23%。想定レベルでコントロールした。冬季の支出に備え、通期計画は532億円で据え置く。
- 販管費の進捗詳細を項目別に開示する。各項目、概ね20-25%程度で推移。広告宣伝費は2Q以降、CM費用に投入予定。運搬費用と託送料は冬季のガス販売量増加に伴い伸びを見込む。

*実数の単位未満は端数処理。 *進捗、前期比は億円表示処理後で算出。

販売管理費明細 (億円)	20/3期 通期	20/3期1Q (4月-6月)	進捗 (%)	コメント	19/3期1Q (4月-6月)	前期比
人件費	141	33	23%	・通期計画を保守的に見積	33	+0
減価償却費	84	19	23%	・ITの償却はIT費用で計上。期中に新たな資産の計上を見込む	20	▲1
顧客獲得費用(*)	70	18	26%	・LPガス・新都市ガス・電気に係る顧客獲得費用を合計	14	+4
ガス関連機材等	30	8	27%	・LPガスの順調な顧客獲得に伴い計画を上回る進捗	7	+1
保安費・検針費用等	29	7	24%		7	+0
運搬費用	28	6	21%	・冬季のガス販売量増加に伴い伸びを見込む	6	+0
租税公課・事業税	21	6	29%	・1Qに一過性の事業税支払、通期計画に変更無し	4	+2
広告宣伝費	18	2	11%	・2Q以降でTVCM放映を予定	9	▲7
手数料	17	4	24%	・ガス料金の収納に係る費用など	3	+1
IT費用	15	3	20%	・ソフトウェア償却を含む	3	+0
修繕費用	12	3	25%	・ポンプや機材等の修繕費用	3	+0
通信費	11	3	27%	・郵便代など顧客とのコミュニケーション費用	2	+1
託送料	9	1	11%	・主にグループ会社が支払う託送料。大部分は原価で計上 ・冬季のガス販売量増加に伴い伸びを見込む	1	+0
旅費交通費	7	2	29%		2	+0
ホールセンター	7	1	14%	・ホールの効率化により削減を図っている	1	+0
その他	33	7	21%	・想定内で進捗	7	+0
合計	532	125	23%		122	+3

(*) 顧客獲得費用は、営業費用とサービス品の合計(これまでの顧客獲得費用の定義から、メーターやポンプに係る費用を除外)

決算の実績③／LPガス事業(19/4-6月)

お客様純増ペースは前期比・計画比共に上回って進捗。ガス販売量増加と利幅拡大で増益

- 1Qのお客様純増数は前期比で1.5倍、年間計画30千件に対しても進捗率31%と順調に推移。20億円規模となるM&Aの顧客移管手続きを進めており、年度内に完了させる。
- ガス販売量はお客様数増加と前期より低い気温がフォローして伸長。ガスの利幅拡大、プラットフォーム等の収益も伸び、粗利益で前期比+14億円。

*実数の単位未満は端数処理。 *%、増減は億円表示処理後で算出。

LPガス事業(億円)	19/3期1Q (4月-6月)	%	20/3期1Q (4月-6月)	%	増減	コメント
売上高	161	100%	180	100%	+19	
内、ガス	141		149		+8	・ガス販売量増加
内、機器・工事他	19		30		+11	・20/3期1Qでは、プラットフォーム収益(1億円)、土地賃貸(1.2億円)、電気(4億円)を計上
粗利益	91	57%	105	58%	+14	
内、ガス	87		100		+13	
kg当たり	113円		125円		+12円	・利幅拡大
内、機器・工事他	4		5		+1	・20/3期1Qでは、プラットフォーム収益(1億円)、土地賃貸(1.2億円)、電気(0.3億円)を計上
お客様純増数(千件)	6		9		+3	・前期比で約1.5倍、通期計画を上回るペース
お客様数(千件)	834		862		+28	
ガス販売量(千トン)	77		80		+3	
家庭用	48		49		+1	・20/3期より精度向上のため集計基準を変更。新基準に沿うと19/3期1Qの家庭用は46千トン、
業務用	30		31		+1	業務用は31千トン程度

決算の実績④／旧都市ガス事業(19/4-6月)

低気温がフォロー、粗利増益。お客様の他社への切替は減少基調

- ガス販売量は、19/3期より低い気温がフォローとなり家庭用の販売量が微増。気温の動向より需要の変動からの影響が大きい業務用は横ばい。
- 利益面では、ガス販売量に加えて、スライドタイムラグのプラス転換もフォローとなり、粗利は前期比+1億円。
- お客様数は純減(同▲2千件)も、他社への切替数は足元減少基調。1月以降にスタートした電気とのセット販売が奏功。

*実数の単位未満は端数処理。 *%、増減は億円表示処理後で算出。

旧都市ガス事業 (億円)	19/3期1Q (4月-6月)	%	20/3期1Q (4月-6月)	%	増減	コメント
売上高	108	100%	109	100%	+1	
内、ガス	90		97		+7	
内、機器・工事他	18		12		▲6	集計区分の変更により減少
粗利益	47	44%	48	44%	+1	
内、ガス	43		44		+1	
内、託送収益等	1		2		+1	
内、機器・工事他	3		2		▲1	
お客様純増数(千件)	0.4		▲0.2		▲0.6	
お客様数(千件)	413		411		▲2	僅かに純減。計画と大きな相違なし
ガス販売量(千トン)	73		74		+1	
家庭用	29		30		+1	前期より低い気温がフォロー
業務用	44		44		+0	
スライドタイムラグ	▲0.6		+0.8		+1.4	スライドタイムラグはプラス

決算の実績⑤／新都市ガス事業(19/4-6月)

お客様数大幅増加、ガス販売量伸長。粗利益も想定線で増益

- お客様数は前期比で+137千件となる263千件に増加。これに伴いガス販売量大幅増加、家庭用とともに業務用も伸長。粗利益も想定線で増加し前期比+4億円の6億円となった。
- お客様純増数(4月-6月)は前期比+3千件となる31千件。通期計画150千件に対する進捗率21%で推移。採算面を意識しながら顧客獲得を伸ばす。

*実数の単位未満は端数処理。 *%、増減は億円表示処理後で算出。

新都市ガス事業 (億円)	19/3期1Q (4月-6月)	%	20/3期1Q (4月-6月)	%	増減	コメント
売上高	18	100%	39	100%	+21	
内、ガス	14		35		+21	
内、機器・工事他	4		4		+0	
粗利益	2	11%	6	15%	+4	
内、ガス	1.6		5		+3.4	・加入時割引(売上から控除)の影響がストック増加に伴い低減。利益率向上
内、機器・工事他	0.5		0.4		▲0.1	
お客様純増数(千件)	28		31		+3	
お客様数(千件)	126		263		+137	
ガス販売量(千トン)	12		23		+11	
家庭用	9		16		+7	・お客様数の大幅増加による
業務用	3		7		+4	

決算の実績⑥／電気事業(19/4月-6月)

お客様純増はほぼ計画通り。使用量の多いお客様に対して電気を販売

- お客様純増(4月-6月)は23,094件。年間計画100千件に対し進捗率23%とほぼ計画ペース。
- 電気はガスとセットで販売。セット販売の内訳はLPガス60%、旧都市ガス17%、新都市ガス23%。
- 電気のお客様は、99%以上が家庭用。月200kWh以上電気をご利用のお客様にメリットがある料金プランを設定、ご使用量の多いご家庭に電気を販売している。
- 電気事業の粗利益は、セグメント収益ではLPガスの内数として計上。

*実数の単位未満は端数処理。

電気事業 (億円)	20/3期 通期計	20/3期1Q (4月-6月)	コメント
売上高	80	4	
粗利益(*)	5	0.3	
kWh当たり	1.57円	1.3円	

(*) 電気の粗利益はLPガスセグメントに含まれている。金額は請求ベースで表示。

お客様純増数(千件)	100	23・進捗率23%、ほぼ計画ペースで進捗
お客様数(千件)	116	39・6月末時点のお客様数
ガス種内訳(%)		
LPガス(%)	—	60%・LPガスとのセット販売が先行したため割合が高い
旧都市ガス(%)	—	17%・今年1月よりスタート。19/3期末に比べてシェア拡大
新都市ガス(%)	—	23%・新規お客様に対してセットでの販売を進めている
家庭用・業務用内訳(%)		
家庭用(%)	—	99%・お客様の99%以上が家庭用
業務用(%)	—	1%
電気販売量(MWh)	337,000	21,162

3ヶ年計画

3ヶ年計画に変更なし。計画達成に向けて堅調に推移

- 最優先のLPガス純増は3ヶ月間で9千件と、通期計画30千件に対して順調に推移。
- 1Q粗利益は159億円、ほぼ計画通りの実績。販管費を計画内にコントロール、営業利益も計画比順調に推移。プラットフォーム収益も計画通りに進捗している。

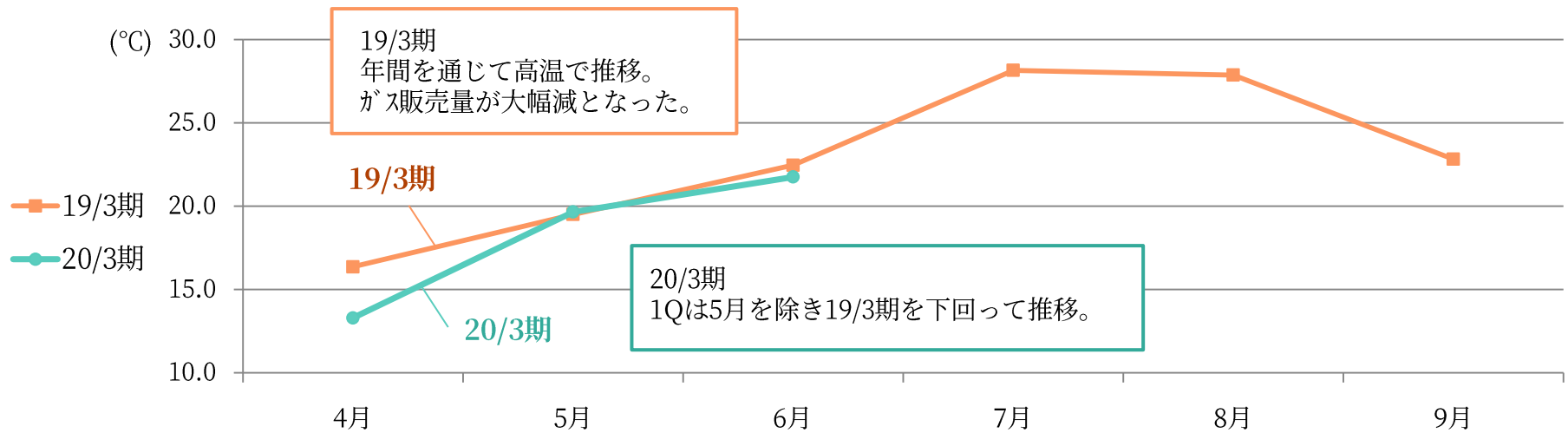
	20/3期(計)	20/3期 1Q	21/3期(計)	22/3期(計)	
顧客純増数 (千件)	LPガス	30	9	35	40
	旧都市ガス	0	▲0.2	0	0
	新都市ガス	150	31	150	150
	電気 ※電気お客様数は、ガスのお客様数の内数	100	23	100	100
	気温	平年並み	前期比▲1.3℃	—	—
収益計画 (億円)	粗利益	637	159	—	—
	LPガス	422	105	—	—
	電気* *LPガス粗利益の内数	5	0.3	—	—
	プラットフォーム収益* *LPガス粗利益の内数	4	1	8	10
	旧都市ガス	188	48	—	—
	新都市ガス	27	6	—	—
	営業利益	105	34	—	—
資本政策	自己資本比率	46%	50%	45~50%	45~50%
	総還元性向	141%	—	—	—
	ROE	8%程度	—	10%程度~	10%台前半~

気温想定

1Q平均気温は前期比▲1.3°C。2Q~3Qも前期比で低い気温(平年並み)を予想

- 1Qの平均気温は、4月と6月が低く、平均して前期比▲1.3°C。ガス販売量の増加に繋がった。
- 2Q~3Qの平均気温も、前期より低くなることを予想*1。

月次平均気温の推移



	19/3期1Q (4月-6月)	20/3期1Q (4月-6月)	前期比	20/3期2Q-3Q (予)
平均気温*2	19.5°C	18.2°C	▲1.3°C	19/3期より低い(平年並み)
平年値*3	17.6°C	17.6°C	-	-

*1：専門情報機関からの情報を基に想定

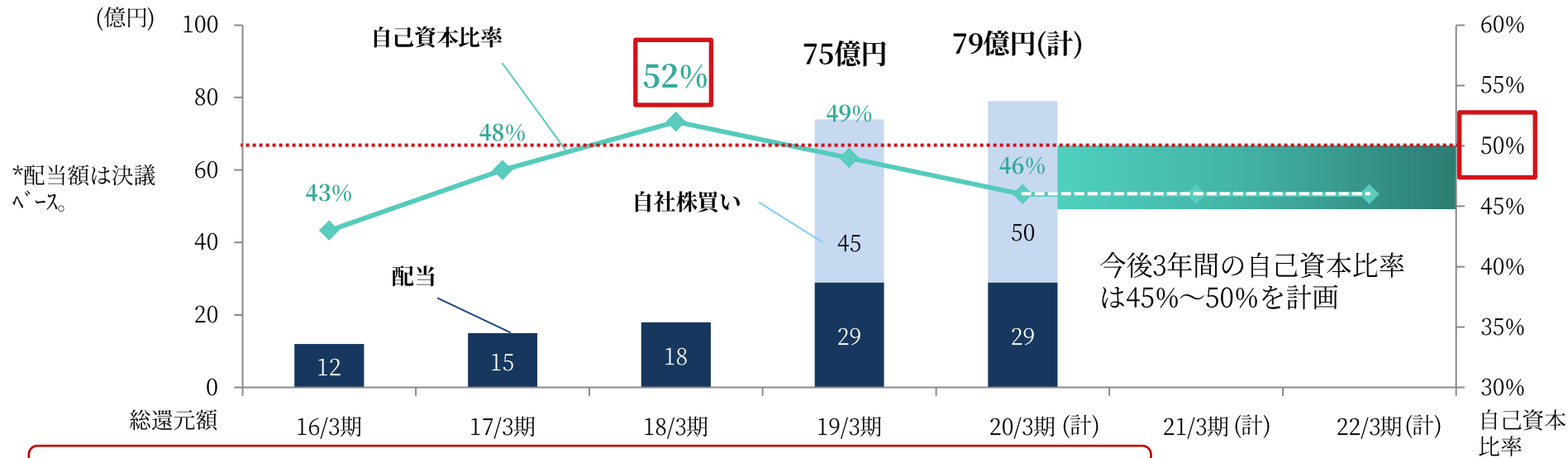
*2：当社営業エリア(関東1都6県、山梨、静岡)の平均気温(参照元：気象庁ホームページ)

*3：当社営業エリアの1981年~2010年の平均気温(参照元：気象庁ホームページ)

株主様への還元

十分な財務基盤を背景に成長投資と株主還元を両立。今期も50億円の自社株買入実施

- 20/3期は、配当で29億円、自社株買いで50億円、計79億円の還元を計画。事業環境を踏まえても財務基盤は十分、還元強化を継続する。余力のある水準として自己資本比率を45-50%に設定。22/3期まではこの水準に沿った還元を進める方針。
- 配当は1株あたり70円で据え置き、自社株買いは設定枠50億円内で買入れを進めている。



総還元性向	17%	22%	23%	174%	141%
-------	-----	-----	-----	------	------

配当(億円)	16/3期(実)	17/3期(実)	18/3期(実)	19/3期(実)	20/3期(計)
総還元額	12	15	18	75	79
配当額	12	15	18	29	29
(1株あたり配当額)	30円	34円	42円	70円	70円
自社株買い	2百万円	2百万円	3百万円	45億円	50億円
自己資本比率	43%	48%	52%	49%	46%

自社株買い進捗(4-6月)	
買入金額	1.9億円(3.8%)
買入株数	7.1万株(4.3%)

*自社株(50億円)買入対象期間
：2019年5月1日～2020年4月30日

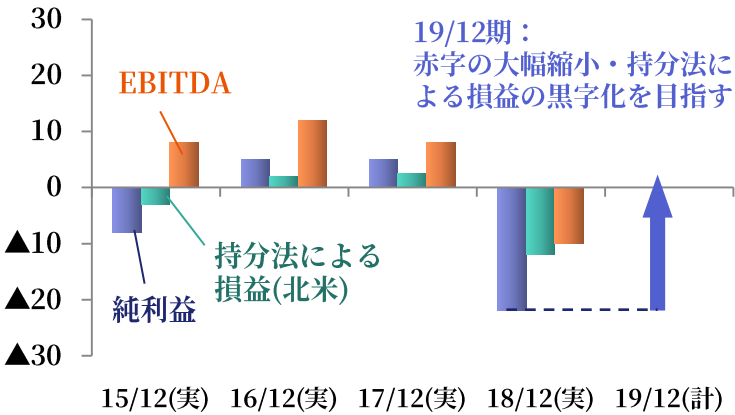
*配当額は決議ベース。

海外事業(北米事業)

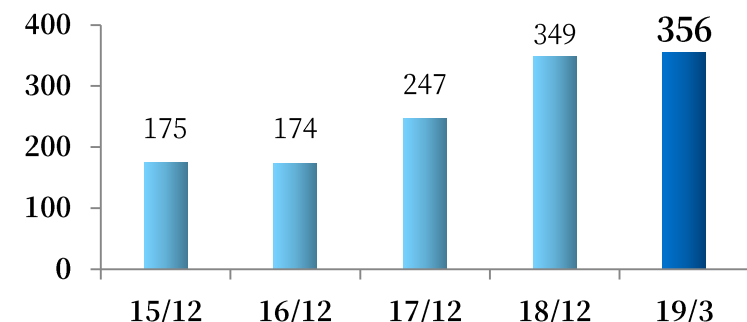
19/12期は赤字の大幅縮小、持分法で取り込む損益の黒字化を目指す。利益率改善が鍵

- 18/12期は異常気象等の影響で調達価格高騰、粗利率大幅低下。10月以降に利益率改善も通期で損失計上。
- 19/12期は、1)調達コストの安定、2)自社営業への回帰、3)組織再編を進め、赤字の大幅縮小、持分法による損益黒字化を目指す。19/1-3月*は前期比で赤字が大幅に縮小、20/3期1Qで取り込む営業外損失は約US\$0.7milまで縮小。 *北米事業は12月決算で持分法適用(50%)。3ヶ月遅れで持分法による損益を取り込み。
- 今後は、不採算エリアからの撤退・大幅縮小を含めた組織再編も検討し、利益率改善を進めていく。

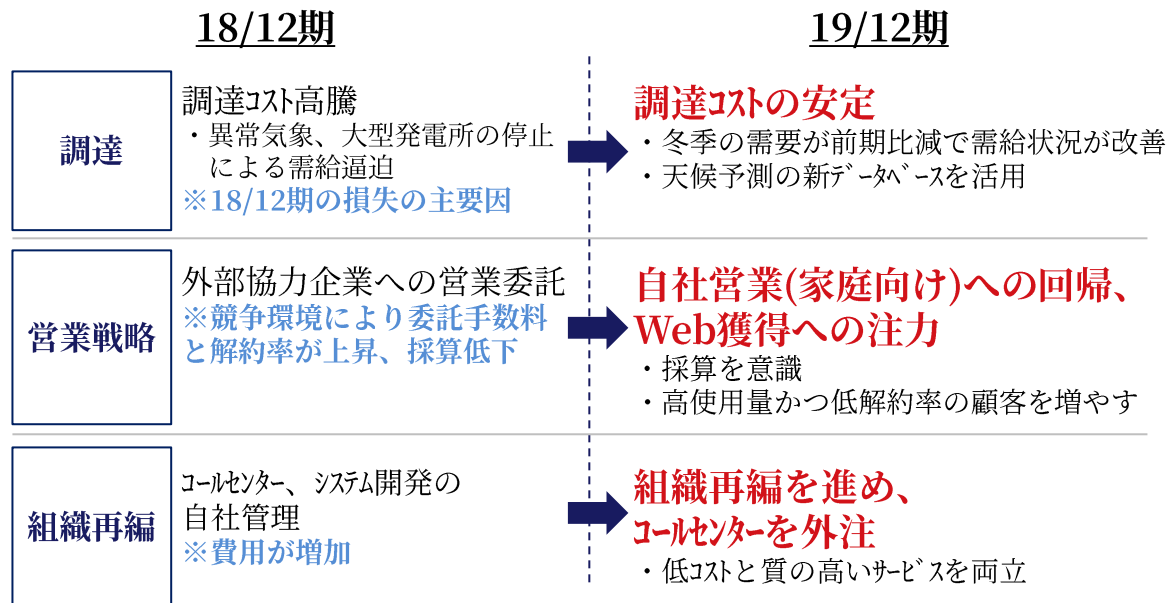
業績の推移(US\$ mil)



お客様数の推移(千件)



19/12期 利益率改善への進捗



今後

不採算エリアからの撤退・大幅縮小を含めた組織再編も検討

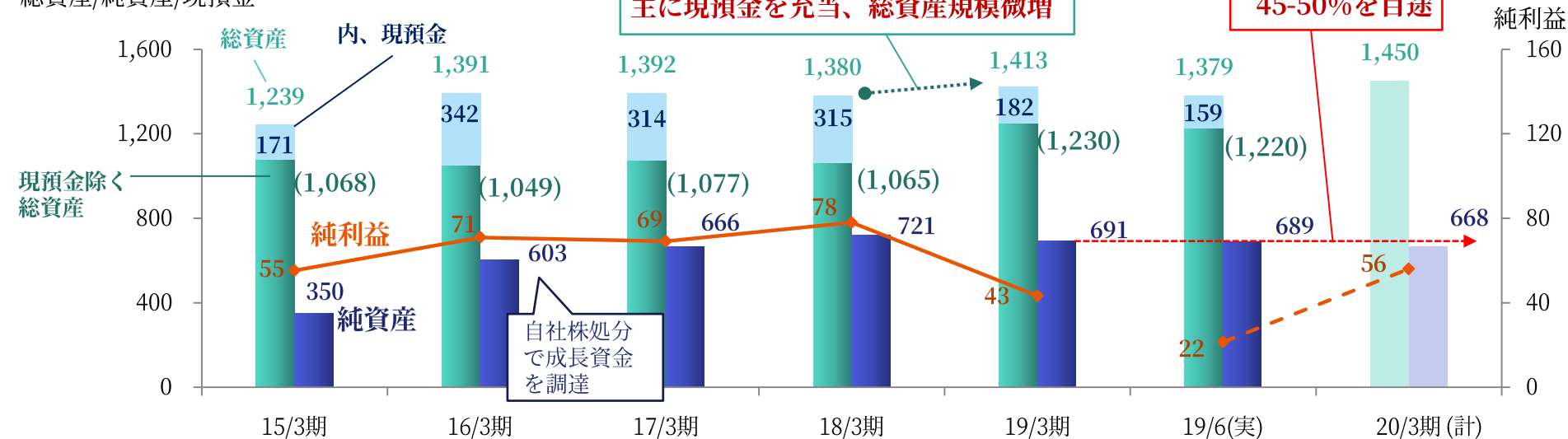
財務ハイライト①／B/S

財務基盤(純資産レベル)は十分、資本効率を意識してコントロールする

- 総資産は1,400-1,500億円のレベルで推移させる計画。手元Cashは19/3期に圧縮。
- これまでの堅調な業績を背景に自己資本比率は成長投資と株主還元を両立できる水準に到達。
- 19/3期から還元強化、資本効率を高めている。自己資本比率は45-50%の水準で推移させる計画。

B/Sと純利益の推移(億円)

総資産/純資産/現預金



B/S(億円)	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	19/6(実)	20/3期(計)
自己資本比率	28%	43%	48%	52%	49%	50%	46%
有利子負債	639	539	474	414	473	478	—
D/E Ratio	1.8倍	0.9倍	0.7倍	0.6倍	0.7倍	0.7倍	—
ROA ^{*1}	4.5%	5.1%	5.0%	5.7%	3.0%	—	4%程度
ROE ^{*2}	13.9%	14.9%	10.9%	11.2%	6.1%	—	8%程度

*1 ROA=当期純利益÷総資産×100

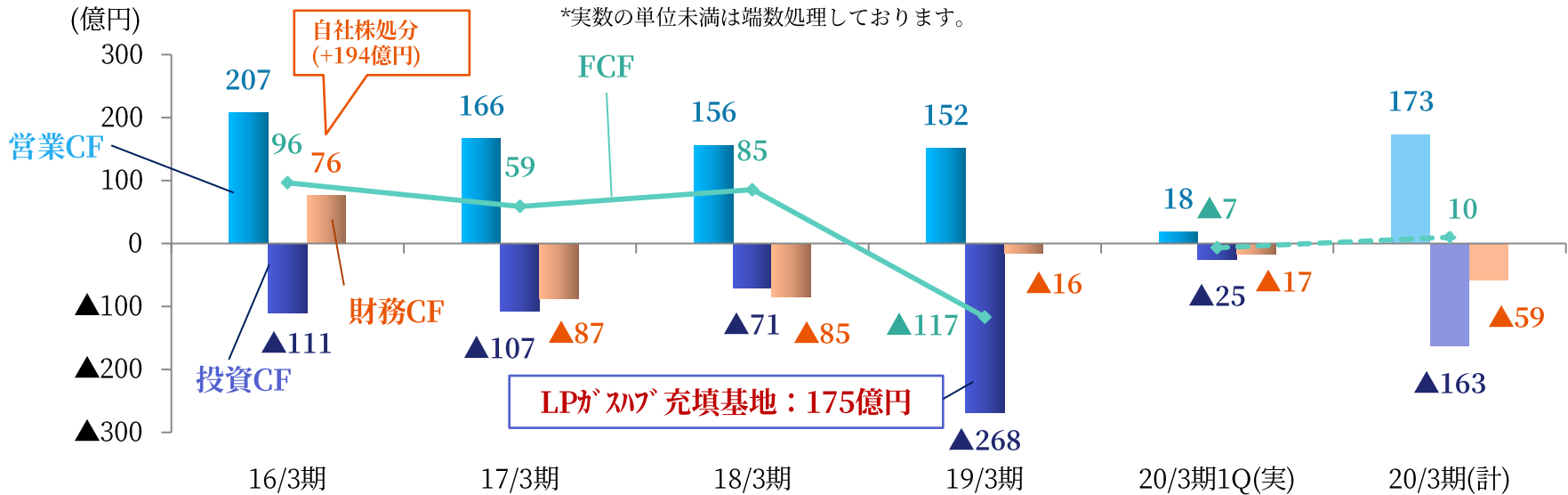
*2 ROE=当期純利益÷(前期および当期純資産の平均値)×100

*実数の単位未満は端数処理

財務ハイライト②／Cash Flow

営業CFは冬季に伸びてFCFは通期でプラスに転じる。資金はLPガスとICTに重点的に配分

- ガス需要が高まる冬季に営業CFが伸びる。FCFは通期でプラスに転じる計画。
- 資金は、将来のキャッシュ創出力と資産効率を重視して配分する。19/3期に主力のLPガス事業でハブ充填基地に大型投資を実施。20/3期はM&A (LPガス)に20億円程度、プラットフォーム事業確立やホーレションの進化を目的としてICTへ20億円の投資を計画。



Capex

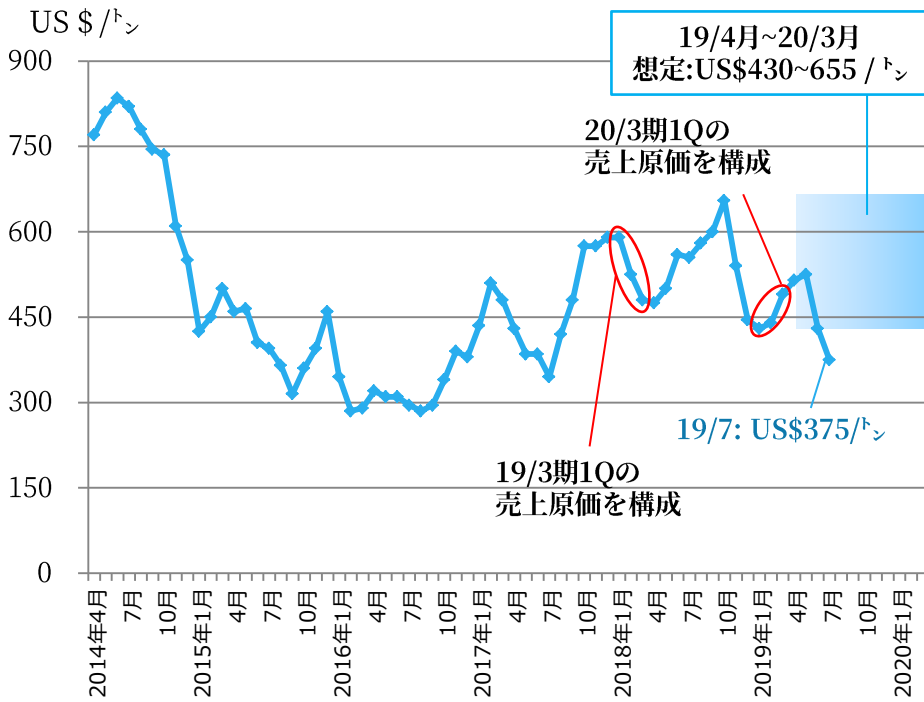
(億円)	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期1Q(実)	20/3期(計)	コメント
LPガス事業	27	21	19	201	5	58	・19/3~20/3期は基地関連投資で増加
旧都市ガス事業	69	66	60	58	12	65	・導管入替完了とともに逡減する
ICT	15	14	9	14	4	20	・プラットフォーム事業、ホーレションの進化を進める
M&A	3	4	1	0.3	2	20	・LPガスのM&A(商圏買収)

参考／原料価格の推移

LPガス原料価格大幅低下、円高基調。2Q以降のLPガス事業の追い風に

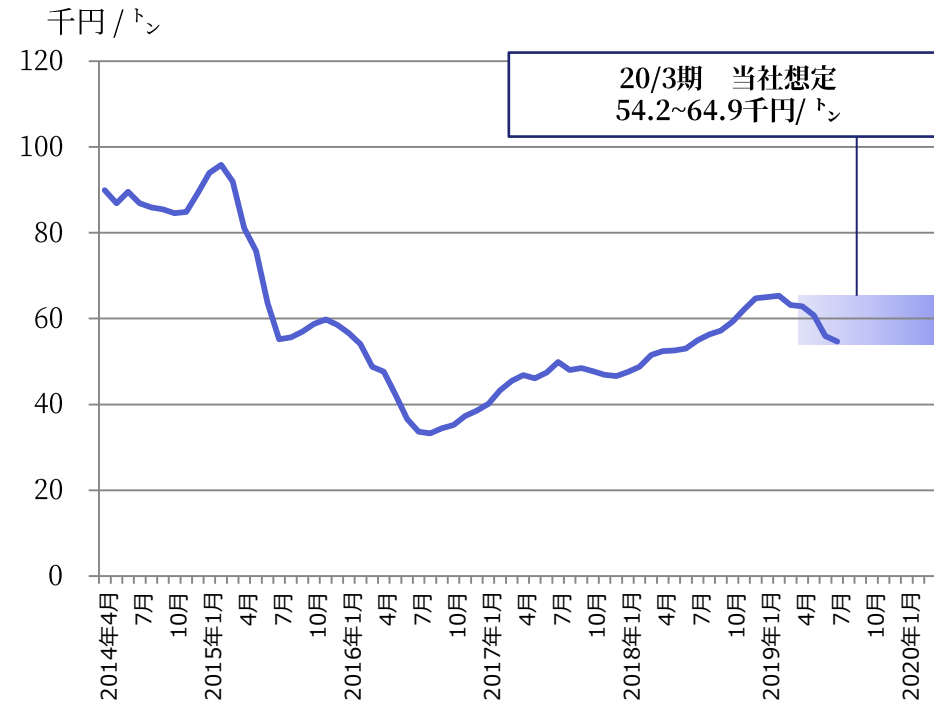
- LPガス原料価格は19/6月以降大きく低下。足元当社想定の下限(US\$430/ト)を下回って推移、2Q以降のLPガス事業の追い風となる。原料価格想定レンジは、現時点では据え置く。
- 20/3期の為替想定は112円/US\$。足元相場は想定より円高で推移、こちらも同様にLPガス事業に追い風。

プロパンガスFOB価格推移



為替想定
20/3期: 112円/US\$

LNG原料価格推移



出典 ・ FOB価格: 日本LPガス協会ホームページ
・ LNG原料価格: 当社平均仕入価格